

ふかまちのまじ

第105号 10年2月1日
発行元 深町内会連合会
連絡所 六三三八八二

町内会連合会活動報告

役員会の開催

一月十八日(土)に、本年度最後の行事である藤井川清掃作業等について協議しました。川掃除は二月二十三日(日)に実施予定としました。又、平成十四年度諸行事の反省や規約の改正について検討しました。
▲▲
(事務局)

尚寿会報告

尚寿会会長 幸谷 満夫

一、新年会の実施
一月十六日(木)中之町アクアランドにて温泉と食事を共にして、一年間の無病息災を誓い合いました。
二、深小ふれあい広場参加
一月十八日のとんど準備、十日の本行事に有志が参加しました。▲▲

深小だより

大寒の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
先月の新春ふれあい広場には、たくさんおいでくださいました。誠にありがとうございます。おかげさまでたくさんの方とのふれあいの中で、有意義な時間を過ごすことができました。

女性会だより

深町女性会の今

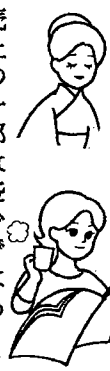
深町女性会 会長 沖西 サカエ

長年馴れ親しんで来た婦人会という名称から女性会と改正されて十年目、ようやく女性会という言葉が自然に口をついて出るようになりました。これも時代の流れと言いました。これも時はいつまでも若く美しく有りた、そして、一部の者だけでなく、フレッシュユミズから高年部まで幅広い女性団体として位置づけられました。
今、深町の女性会会員は四十名に満たない小さな会ではあります。が、会員一人一人ができるだけの知恵と互いの助け合いにより、ささやかながらも充実した女性会活動に取り組んでおります。
ここで、そうした活動の一部を紹介いたします。
まず、田植後のドロ落として、一日慰安旅行があります。四月の総会の席で、皆で意見を出しあい旅にのぞいて、皆で有意義で楽しい一日旅行をしております。

深小学校児童会の子どもたちがお世話になった地域・保護者の方々にお手紙を書きました。読んでください。
なお、二月二十六日(水)九時五十分から幼・小の馬拉ソン大会を予定しています。応援にきてください。▲▲

反面現在の世の中の不況は女性会にも厳しいものがあります。長年活動の資金源としておりました郵貯の団保集金手数料の打ち切り、JA活動費の削減等々です。
しかし、そこは得意な女のやり繰りで知恵を絞り考え出したのが、ここ二年、自分たちで家庭に眠っている物を整理して持ち寄り、会員だけで一日チャリティパーティーサイクルショップを計画致しました。実際には会費と品物を出さないだけのものですが、それを品定めしながら買ったりと、女性特有の楽しい企画が成り立っていました。

功しい物には沢山の人の名前が書かれ、最初の年にはオークションをし、二百円位から始まり、どんどん熱のこもるものもありました。今年もジャンケンで決めました。済んだあと、あのジャンケンをしていて時の皆の顔は真剣そのままであったよネーと、会場一杯に笑い声がひびきました。



売上の一部は些少ではありますが、池に届けさせていたいただき、小さい気持ちに大きな感謝の言葉をいただきました。
そのほかにも地域の行事への協力、季節に応じた諸活動にも取り組んでおります。
又、上、中、下組とそれぞれ年間計画にしたがって親睦会を開いております。
なお、中央に出れば四十九才まではフレッシュユミズ部会、六十才以上は高年部会として専門部会がおかれ、それぞれの年代に応じた部会活動にも参加しております。

地域のみながまへ

新春ふれあい広場では、朝早くから大変お世話になりました。また前日までは竹を切ったり、わらの準備をしてくださったりして、大きなとんどを組み立ててくださり、本当にありがとうございました。おかげで、みんなが楽しみにしていた新春ふれあい広場が楽しくできました。みんなでおもちつきはとても楽しかったです。いとんどでやいたおもちはおいしかったです。6年生にとっては最後の新春ふれあい広場でした。とてもよい思い出になりました。本当にありがとうございました。これからいろいろなとお世話になりますか、どうぞよろしく願います。

2003年1月22日
深小児童会本部

こうしたさまざまな活動の中で、自分だけでは知りうることを出来ない数多くのことを教えられました。
現在の高齢者社会の中で、元気で楽しい日暮しをしたいのは、すべての人々の共通の願いだと思います。
高齢者同士が支えあって生きて行く時代です。年齢の壁を越えて地域で共に支えあって行きたいものです。
どうぞ、一人でも加わり大きな女性会の輪が広がって行くことを心から念じております。

※ 女性会年会費 一人 一〇〇〇円
お問合せ先 沖西サカエ 電話 六三一―二九五

深町各種団体二月行事予定

- ◆町内会連合会 二三日
- ◆藤井川清掃作業 二三日
- ◆小学校・幼稚園 二三日
- ◆冬季学園(五・六年) 五・六日
- ◆租税教室(六年) 十八日
- ◆参観日(一・二・三) 二二日
- ◆(テ)マタイム発表会(一・二) 二四日
- ◆避難訓練(一・二) 二四日
- ◆マラソン大会(幼・小) 二六日

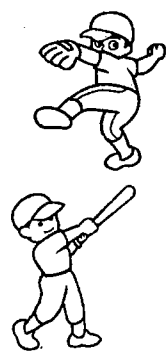
◆女性会
▼親睦会 中上 第三水曜 第二日曜

まもなく立春。寒い中にもほのかに柔らかな温かさが感じられる季節となつてまいりました。しかし、今の世の中、高校生就職難。会社の手となり足となつて働いてもリストラ。失業悪化。かけがえのない生命をかけた甲斐のない生命保険をかけた、つる不安。冷え切った景気に、どうも暗い。冷たいイメージの昨今です。でも、「暗」の字はお日様が横と下から「早く立ち上がりなさい」と応援しているようにも思えます。暗いといつても「お日様の音」と書かれています。真つ暗な時でも、お日様の音が聞こえてくるようです。
働き過ぎて「過労死」するより、長生きし過ぎて「過老死」をめざし、人生の速度をゆるめてみればまた違った風景も見えてくるかもしれません。行き着く先が同じなら道草も人生。見方を変えたら人生も変わる。気づいた時が変わる時。あの田中耕一さんも、実験に失敗した時に、ノーベル賞につながる偉大な発見をしています。
「雪が溶けると水になる」と冷たく答えるより、「雪が溶けると春になる」。明るく温かい春の訪れを待っています。

深小時代の思い出(2)

元深小学校長 坂井吉徳
「ソフトボール」の巻

昭和二十年(一九四五)八月十五日、長かった太平洋戦争も日本国の無条件降伏になり終わりました。
もうあと二・三日遅れていたら、尾道、三原、因島も焼け野原になっていただろうと、古老達が話していました。
深町には、福山空襲のあった八月八日の夜半、焼夷弾が落とされ、大きな山火事があったと書いています。
戦後教育界も大改革が行われ、今日の六・三・三制が実施されました。この制度により、新制中学が誕生し、旧制中学は現在の高校になりました。



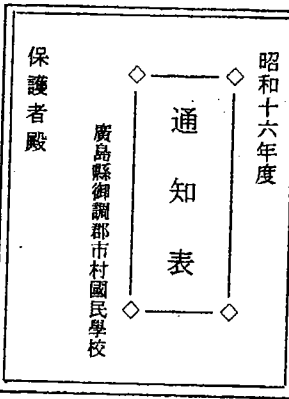
さて、昭和三十年(一九五五)九月に私が深小学校へ赴任してみると、子ども達は元気にソフトの試合をしていました。

通知表今昔(1)

高崎 壽郎

通知表の名称と内容

私の通った学校は国民学校(現在の小学校で太平洋戦争中の呼称)で、当時の通知表が現存している。今の通知表と比べて考察してみたい。
昔は太平洋戦争が始まった、昭和十六年(一九四一)四月から昭和二十二年(一九四七)三月までの六年間で、今は平成一三・四年度である。
戦前戦中の名称は、通知表、通知票、通信簿だった。
戦後の昭和三十年(一九五三)当時学生だった私は、大阪府下の小学校の通知表を調べたことがある。



それには、名称は通知表、通知票、通信簿の他に、伸びゆく子、努力表、成長発達記録、学習の記録、れんらくほ、あさひこー通知表など、各校で自由につけていた。

よく見ると、誰もグローブを持ってなく、素手で試合をしているのです。「エッ！」と驚きながら丸太をバットに見ると、子ども達は丸太をバット状に削って、打っているのです。



昭和30年代頃の深小学校

グローブがなくて出来るの？と思われ人もおられると思いますが、彼等は独特のルールと方法を考案していました。
まず、ベース間はプロ野球並に長いのです。又、ボールが飛んでくると、必ず両手で一度地面に落として、それから投げるのです。投げる時も約束があつて、必ずファーストには、ワンバウンドで投げるのです。



最近、三原市、尾道市、御調郡の通知表を深小学校の協力で調べてもらったが、ほとんど「あゆみ」の名称になっている。
その内容は、昔は学業成績、出席状況、身体状況、修了認定、通信欄だったが、今は学習の記録、行動の記録、出席状況、身体状況である。
身体状況については、今は別に個々の健康手帳のようなものを作り、その都度家庭に連絡している学校が多い。又、今話題になっている「総合的な学習」の記録欄をもうけた学校もある。
今の通知表は、子ども一人ひとりの努力のあとを記録して、少しでも次の励ましになるよう、それぞれの学校で工夫し、改善されていた。

ところが、最近市、町ごと同一型式の通知表が作成されつつあると聞く。
昔は、担任の先生より通知表が渡されると、急いで教室の隅へ行き、ドキドキしながらそれを開いてみたものだ。友が来るしと急いでかくしたりして。今はお互いに見せ合っことをしている。
又、昔は通知表をかならず親にみせたものだが、今はどうだろう。私の親は、新学期が始まるまで、それを佛壇に供えていた。

見事な新ルールを考案して楽しんでやっていたが、これには、「うーん」と私もうなりながら見ていました。
しかし、他校との試合ではこれは通用しません。そこで、私の古いグローブを貸してやり、「これを左手につけてやってみる」といつてやらせました。
すると、「先生、こんなものじゃまじや」といつて投げ捨てました。

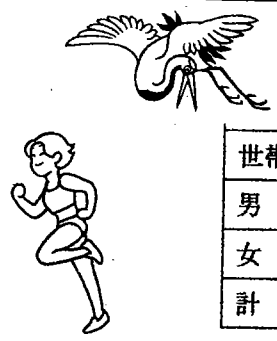
三十一年の春には、児玉校長にお願ひして、五個のグローブとバット一本を買ってもらい練習しました。
やがて秋の初めに、中之町で試合がありました。誰が監督や選手だったか憶えていません。結果は惨敗で帰ったという報告を受けましたが、これを境に、自分のグローブを全員買つてもいい練習するようにしました。
当時は、深町全般に「イ草」の栽培が盛んで、夏になるといなる所で「イ草干し」が行われていました。
日暮れになり、イ草のとりこみが終わると、子ども達は一斉にグラウンドに飛び出して、ソフトの練習をしていました。
その年の試合は負けましたが、大変接戦だったとききました。こうして、ソフトもびっくりする程上達していきました。
このごろ社会では「六・三制、野球ばかりが強くなり」という川柳が大流行しました。

見事な新ルールを考案して楽しんでやっていたが、これには、「うーん」と私もうなりながら見ていました。
しかし、他校との試合ではこれは通用しません。そこで、私の古いグローブを貸してやり、「これを左手につけてやってみる」といつてやらせました。
すると、「先生、こんなものじゃまじや」といつて投げ捨てました。

深町の人口

	平・6・12・31	平・14・12・31
世帯	304	437
男	442	538
女	480	563
計	922	1,101

*三原市町別人口集計表による



如水館高女子駅伝部

五年連続五回目の全国大会に出場した如水館高校女子駅伝部の選手達は健闘空しく十五位の成績に終わった。
レースは一区・二区で七位ながら、三区・四区で大きく順位を落とし五区で巻き返したものの結局十五位に終わり、来年度への捲土重来を誓った。

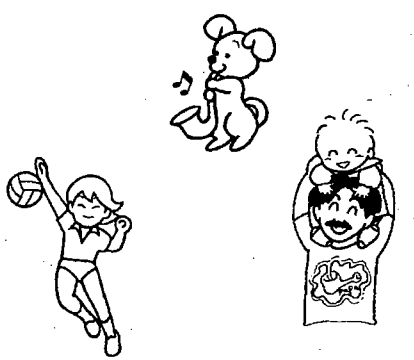
子ども会だより

子供会ソフトボール 監督就任にあたって

屋敷 猛

平素より、深町の皆さまには子ども会ソフトボール活動に對しまして、格別のご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。
さて、八年間にわたりコーチ・監督としてご尽力いただきました古川さんの退任を受け、今年から監督をさせていただきますことになりました。
今まで子どもたちを指導した経験も特別な技術もなく、微力ではあります。子どもたちと一緒に「明るく・元気で・楽しく・本気で」がんばっていきたいと思ひます。
歴代の監督さんをはじめ今までお世話をされてきた方々のおかげで元気で素直な子どもたちばかりのすばらしいチームが続いていきます。

これからは先輩チームに負けないように子どもたちも一生懸命がんばりますので今後も引き続きご支援をお願いいたします。



第22回ビーチボール バレー大会を終えて

体育部長 広川弘之

平成十五年一月十二日(日)、三原リージョンプラザ体育館で例年通り行われました。
深町地区は五チームが参加しました。小学生男子チームが一回戦を勝利したものの二回戦で惜しくも敗退しました。
他のチームは善戦したものの一回戦を勝利することが出来ませんでした。寒い時期で選手の皆さんはコンディション作りに苦労されたと思います。ご苦労でした。
来年度もこの時期に開催されるので、全チーム一回戦は突破するよう、練習の密度を向上させていきたいと思います。